



一人ひとりと丁寧に関わる保育をめざして 子どもが自分の色で輝く小規模保育園

——— 特定非営利活動法人天翔会 なないろ保育園

企業データ

事業所／甲賀市水口町の場75番地(なないろ保育園)

甲賀市水口町貴生川900-2(なないろ保育園貴生川駅前園)

創業／令和4年(2022年)

従業員／28名

事業内容／乳幼児・児童に対する保育事業

URL／<https://nanairo-hoikuen.jp/>



理事長 ^{やもり ゆうき} 家森 祐樹 氏



起業で地域の待機児童問題に取り組む

水口城跡のすぐそば、近江鉄道水口城南駅から徒歩5分の場所にある「なないろ保育園」は、0～2歳を対象とする小規模保育園として2022年に開園しました。一般的な認可保育園が定員20名以上であるのに対し、小規模保育園は6～19人までの少人数制。マンションなど集合施設内での運営も可能で、一人ひとりの子どもに丁寧に関わることができるのが大きな特徴です。

2015年から認可対象となり、全国でも施設数が増えているなか、園を運営する特定非営利活動法人(NPO法人)天翔会の理事長・家森祐樹氏は「金融業界からこの世界に飛び込んだ変わり種なんです」と笑います。甲賀市で生まれ育ち、地元の金融機関で働き、多くの中小企業と関わるなかで、地域のためにライフワークとして取り組める仕事をしたいと、地元の幼保連携型認定こども園に事務職として転職したことが保育に携わるきっかけでした。

甲賀市でも待機児童問題が持ち上がり、新園の開設が急がれる

なか、「子どもたちやその保護者と触れ合うなかで自分なりの乳児保育に対する理想の保育のかたちも生まれ、それには小規模保育園のスタイルが合致することも相まって、白紙からの創業にチャレンジすることを決めました」。



園の小さな畑。育つ喜びを感じる食育の場。

創業に当たり特に苦労したのは園の立地。園庭が設けられない代わりとして公園が近いこと、そこへの移動が安全であること、また、交通の便や駐車場の確保、地域のニーズに合う場所かなど、さまざまな条件をクリアする必要がありました。許認可手続きも多く、東奔西走することになりましたが、志を同じくする保育士の先生たちを始め、周りの方々が大きな支えになったと振り返ります。

人と人の関わりを深め「保育の質」を高める

保育理念として掲げたのは「にじになれるこどもを育てる」こと。保育士が太陽となって優しい光で一人ひとりを包み込むことで「自分の色」を見つけて「輝く」こと、子どもの個性を伸ばす保育に取り

組んでいます。給食も自園で作っており、「例えば調理室から漂う出汁の匂いでおなかが減る、という五感を刺激する体験や過程、それに伴う楽しさを大切にしています」と家森氏。「動物などを飼育することはできませんが、命の大切さを知り、甲賀市に生まれ育っているからこそ土の感触を身近に感じてほしい」と考え、園の一角に小さな畑をつくり、作物が日々成長する姿を見たり、食材に触れる「感触あそび」や収穫・調理過程の一部を体験することを含めて食育を大切にしています。

ただ単にカリキュラムをいくつも設けるのではなく、人と人との関わりを深めるため、子どもの家族やその職業など一人ひとりの「暮らしの背景」を知ること重視し、近隣の高齢者施設との交流なども積極的に行っています。ミニ運動会にご招待したり、焼き芋をおすそ分けいただいたり良い関係が生まれているとか。

また、保護者の就労に関わらず保育を体験できるよう、子ども家庭庁が進める「こども誰でも通園制度」についても、甲賀市試行事業に小規模保育園として唯一参加。子育ての未来を考える取り組みにも利用者の方々の第一に考えた上で関わっていききたいといいます。

2025年にはJR貴生川駅前に2園目を開園。小規模保育園では安定的な人員配置に苦慮することが多いことから、保育の質の確保とスタッフの働きやすさを考え、2園体制に踏み切りました。「私たちの理想の保育を実現するうえではこの規模が最適解だと感じます。拡大ではなく、保育の質を高めていくことで利用者満足度を上げ、その子どもたちを通して地域社会に貢献したい」と今後の目標について語ってくれました。



ボディペイント



スイカ感触あそび